

第4回サッカースタジアム検討協議会

三浦会長

それでは定刻となりましたので、第4回サッカースタジアム検討協議会を始めさせていただきます。本日も大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。本日は、永田委員が遅れて来られるということですので、この状態で始めさせていただこうと思います。

前回の協議会では、まちづくりの視点で、サッカースタジアムがどのような位置にあるのかについて、広島県、広島市の担当者から県・市のまちづくりの基本的な考え方等について説明いただきました。そして、ヨーロッパにおけるサッカースタジアムの実例を紹介したDVDを見た後、意見交換を行いました。そういったものを踏まえて、まちづくりの観点から、スタジアムを整備することは広島の活性化に繋がるという点で、皆様の共通認識を持つことができたのではないかと考えております。その上で、今回以降、スタジアムを整備するとすれば、どのようなスタジアムが広島にとって相応しいかという点を中心に議論していきたいと考えております。

第1回の協議会で、スタジアムを整備する場合の課題を整理したと思います。どのような規模とするのか、どのような設備とするのか、まちづくりの観点からどのような機能を付加すべきか、あるいは経営の視点からどのような機能を付加すべきかということ課題として挙げていました。こういった点について議論を進めていきたいと考えております。お手元の今日の次第を見ていただければと思います。議事の1番です。「広島に相応しいサッカースタジアムについて」ということで、3つに分けて議論を進めたいと考えております。1つは「サッカースタジアムの建設・改修における要件」です。今、サッカースタジアムの建設あるいは改修をするのであれば、こういった要件が必要なのかについて、まず確認しておくということです。これについては、配付しております資料の1及び2が該当しております。それから、「スタジアムの複合機能化」ということです。前回、ヨーロッパの事例を見て、それから、スタジアムの経営的な視点、あるいは他のスタジアムの状況を見ますと、複合機能という点は必要な視点ではないかと考えております。そういった点で、こういったことが先行事例として行われているのか、それから、こういったことが可能であるのかということについて、認識を深めていければと思います。それから、「広島市に存在する主な大規模用地等」ということで、実際に建設するとした場合には、当然、用地が必要になってきます。今、広島市内ではどのような用地が、可能性のある所として存在しているのかということについても、それぞれの委員においてはお考えがあるとは思いますが、今の段階でこういう所があるということで認識して、今後の議論につなげていきたいと考えております。2番目の複合機能化については、資料が多いのですが、資料の3、4、それから5が1から4まで、そして6になります。それから、大規模用地等については、資料7、8となっております。こういった流れで、本日は議論を進めていこうと考えております。

それでは最初に、「サッカースタジアムの建設・改修における要件」ということで、規模とか設備ということが関連していきます。どのような試合を行うのかによって、要求される規模とか設備が異なってきますので、そういったことを私たちは知っておく必要があると思います。これについては、資料1にその基準を整理してもらっておりますので、この内容について、事務局から説明いただきたいと思います。

事務局

それでは、資料1について説明させていただきます。日本サッカー協会が2010年3月31日に発行しております「スタジアム基準」を抜粋させていただいております。クラスSにつきましては、収容人数で4万人以上、開催できる大会としては、FIFAのワールドカップ、AFCチャンピオンズリーグ、日本代表戦、Jリーグディビジョン1が開催できる基準となっております。クラス1につきましては、収容人数で2万人から4万人、AFCチャンピオンズリーグ、日本代表戦のオリンピック代表、もしくはU20、U17といったアンダーカテゴリーの公式戦又は親善試合、Jリーグディビジョン1、ディビジョン2が開催できる基準となっております。詳細につきましては、こちらに◎、○、▲とあります。クラスS、クラス1の新設と既設ということで、こういったものを全てクリアしなければならないという状況となっております。日本代表戦に関しては、公式戦はクラスSの4万人以上となっておりますが、親善試合等は2万人から4万人のスタジアムでも開催しているという実績が残っております。そちらにつきましては、後ほど資料2にクラス別入場者数の実績をつけておりますので、そちらで確認していただきたいと思います。めぐっていただきまして、「スタジアム標準、サッカースタジアム建設・改修にあたってのガイドライン」の抜粋を出させていただいております。こちらにつきましては、冊子に膨大な量の資料がありますが、そこから、スタジアムに求められる快適性、適合性、立地条件、広域立地条件等について抜粋させていただいております。あと、エコスタジアムということで、現在スタジアムにおけるエコも求められておりますので、こちらも抜粋させていただいております。資料1については以上です。

小谷野委員

これは2010年の基準ですが、私どもJリーグも観戦環境を良くしようという話の中で、スタジアム問題が常に出てまいります。その中で、地域社会との適合性とか立地条件という話については、自治体との密な協力というか、コミュニケーションをとりましようという指導を受けております。それから、ここに載っていないもので最近よく出てくるのは、バリアフリー化を含めた、いわゆる高齢者や障害者の方々に優しいスタジアムということも、エコ対応と並んで非常に重要になってきているところだろうと思います。それを踏まえて、例えば代表戦ですとかオリンピック代表の試合も含めた開催地が決まってくることもあるんじゃないかなと思います。日本代表の公式戦というのは、ワールドカップ予選とか、仮にアジアカップが日本で行われた場合とか、そういうものが想定されていると私は考えています。

三浦会長

資料の読み方ですけれども、諸機能・要件があります、その中で、◎、○、▲ですけれども、それぞれどのような位置付けになるのでしょうか。例えば一番上で言いますと、「鉄道・地下鉄など複数の公共交通利用」という要件があった場合に、明確な基準があるのか、それとも相対的な優先順位なのか、そのような読み方のご説明をお願いしたい。

事務局

こちらについては、何分以内とか、そういった細かい基準までは書かれておりませんので、

相対的な評価・判断になってくると思われま

三浦会長

これは、判断する組織等が存在するのですか。

事務局

これにつきましては、認定制度というものがありませんので、あくまでも参考の基準という考え方になります。Jリーグについては、別途細かいものがクラブライセンスでは必要になってくるとは思いますが、これは、あくまでも基準ということで協会からは聞いております。

小谷野委員

国内シェアに関しては、Jリーグのクラブライセンス担当の部署がありますので、国内のクラブを全部視察した上で細かく採点がなされます。アジアチャンピオンズリーグをするときは、主管のアジアサッカー連盟から運営担当のオフィサーがやってきて、試合をできる状況にあるのかどうか、大会前にインスペクション（視察）があります。それで、するに足るクオリティーがあるということだと、ACLをこの会場でしましようという形になります。そうした意味では、国際大会などがある際には、必ず主管団体のインスペクションが入ります。一方で、こうした規制に対して、例えば駅から何分以内じゃないといけないとか、客観的な数字としては無い。これは事務局の説明が正しいと思います。

三浦会長

それでは、後ろのガイドラインの中で、例えば快適性といった言葉では、どちらのグレードにおいても求められるということでしょうか。

事務局

そちらにつきましては、全てのスタジアムで求められていくものだと考えていただいて結構だと思います。

三浦会長

他に資料について質問はありませんか。

山根副会長

クラスSとクラス1との差で見ましたときに、◎と○の差があるのは、アクセスの所とメディアの所と、あと少しあるだけですが、一番は大きさにあるということですね。4万人収容とか、2万5千人収容とか、あとは大した差はない。大きさによってクラスSとクラス1があるということですか。それと、今までに議論がありました屋根というのはどうなるのですか。

事務局

屋根につきましては、3枚目の「観客関連」という所になります。こちらに「観客席のすべてを覆う」ということで記載があります。

山根副会長

「観客席のすべてを覆う」という所が両方とも◎なんですね、必ず設置しないといけない。分かりました。

高木委員

「適合性」の中で、この内容を伺っておりますと、これ自体が一つの小さなまちの様相にも考えられますよね。ですから、大きなまちの中に、一つの小さなまちを造るような発想も、可能性としてはあるというふうに受け取ってもよろしいでしょうか。これだけの機能を揃えることが可能であれば、まちづくりに似た様相に思うのですが。単なるスタジアムというよりも、それに付随した、周辺も含めて、もっと何か広がっていくような気がします。

事務局

地域全体に適合するというものがガイドラインにも入っていますけれども、そういったことが求められていて、一覧表の部分であれば、スタジアムの立地であったり、形態というのは、周りの事も考えて建設すべきということだと思えます。

三浦会長

今の回答で十分でしょうか。恐らく、そこはガイドラインで、地域社会との関係性を挙げてあったり、地域住民との関わりまで挙げてあるので、単純にスタジアムがそこにあるだけでなく、周りとの関連性で存在するというようなことが書いてあることから、より広い視点でスタジアムを捉えるということに繋がるのだらうと思えます。

川平委員

「広域立地条件」の所で、駐車場の収容台数であるとか、競技場から半径1 km以内に何台であるとか、そういった基準はあるのですか。

事務局

それについては、明確に何万人のスタジアムであれば何台収容するスペースが要するというようなところまではありません。

川平委員

資料1の一番上のページですよ。ね。「駐車場」の欄には、台数とか広さというものは全く無いですよ。そこについては、明確なものは無いという認識でよろしいですか。

三浦会長

今質問されたようなことは、ガイドラインの1. 3. 1の「広域立地条件」の中に考え方は書いてあるという捉え方です。それを実現する・しないについては、それぞれが考え

なさいということだろうと思います。

山根副会長

このガイドラインの抜粋の所で、1. 3の「立地条件」の最後に、「適地選定にあたっては専門機関へ調査依頼することをお勧めします」と書いてある。専門機関とは、どういう所が想定されているのでしょうか。

小谷野委員

これは、民間のシンクタンクなどが想定されています。Jリーグの場合、こうしたことに一番使っているのは、三菱UFJリサーチアンドコンサルです。スタジアム動向についての最新のアップデート等、Jリーグの実行委員会でも、こうしたコンサルタントが行っておりまして、実際に検討などを進める際には、都市計画とかスタジアムを造るコンサルタントの人達が実際に説明を聞いたりコストがいくらだったりというような作業をしています。

三浦会長

それでは、他にもお話しする資料がありますので、次に入りたいと思います。次は資料2です。これは、実際に日本代表の国際大会について、どのような試合が、どこのスタジアムで開催され、入場者数がどうだったのかというものです。第2回にもお配りしていますけれど、さらに最近の試合や女子の試合、今説明のあったスタジアムのクラスも加えています。こちらを見ていくと、多くがクラスSになっているのが分かると思います。クラス1の所だけはシャドーをかけておりますので、見ていただきますとお分かりになると思います。そして、最後の辺りですが、なでしこですね。女子の試合の場合ですと、クラス1より下の所もあるという状況です。何か補足の説明はありますか。

事務局

1点訂正がありまして、2006年、最後のアジアカップの日本対イエメン戦、新潟が4万人となっていて、こちらがクラス1となっていますが、クラスSの間違いでした。申し訳ございません。

三浦会長

クラスSでも入場者数が4万人になっていないのは、入場できるキャパシティとしては4万人以上だが、結果としてこうなったと言える訳ですね。この辺りを見ていきますと、先ほどあったように、質的な面ではクラスSとクラス1はあまり大きな差はなくて、例えばアクセス等については、クラスSの方が要求されるであろうレベルは高い状況にあるかなと思います。そういった中で、どの程度の規模のスタジアムを広島という地に造るのかということについては、どういった試合を広島に誘致するのか、あるいは開催をするのかということが関連を持ってくると思います。日本代表の公式戦をとということになると、当然クラスSということになってきますし、そこまででなくても、例えばオリンピック関連のもの、親善試合であれば、クラス1でも大丈夫だということになります。そういったことを見ていくと、どういった試合をこの広島という地で開催をする方がいいかということによって、クラスS

を考えるのか、クラス1を考えるのかということが異なってくるのだと思います。今すぐどちらという資料を用意している訳ではありませんので、自由にこうではないかという意見を頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

鵜野委員

そうなってくると、クラスSとクラス1では建設費用がどう変わるのか、どこかで教えてもらえないかと思います。大体で良いですけど、倍くらい違うのか、それともほとんど変わらないのか。

三浦会長

今の段階では資料がないので、今後になるかと思います。

小谷野委員

かなり違うと思います。クラスSの国際試合が入ってくると、管轄がFIFAになり、いろいろな世界のメディアが入ってきます。動線の確保とか、アクセスレベルごとの細かい設定に入られるような間仕切りとか、そうした部分も求められますので、スタジアムに遊びの部分を作っておかないといけないんですね。試合前のミーティングですとかメディアカンファレンスファシリティとかもかなり余裕をもって造らないといけなくなりますので、スタジアムのキャパシティー以外にも付随施設の所で随分お金がかかってくるんじゃないかなという感じがします。

塚井委員

少し関連して、資料2で実績の一覧を示していただいているのですが、ここでクラスSと書いてある会場が全てクラスSに対応している訳ではないと思っているのですが、そういう理解でよろしいですか。例えば新潟とか大分とか、クラスSの試合が開催されていますが、それらのスタジアムについても、基本的には準拠していると考えてよろしいですか。

小谷野委員

そもそも2002年にワールドカップをしていますので、かなりの会場はクラスS基準を満足していると思います。ただ、国立競技場などは、屋根は全部付いていないので、そうした意味では、厳密にはクラスS基準になっていなくて、これまで行われてきたので慣例で続けているということだと思います。

塚井委員

私も、自分の専門の所だけで申し上げますと、先ほど、まちづくりのお話もありましたけれど、スタジアムそのもののスペックというお話と、どこになるのかということをしコメント申し上げましたけれど、現状で、例えばアクセスの◎を全て確保するというのは、ほぼ不可能に近い。というか、何を持って◎なのかということもあるでしょうが、公共交通機関を全て鉄道でないとけないという条件をつけると、現状のスタジアムが全てこれを満たし

ているとはとても思えない。あくまでもガイドラインなので、厳しい事を言い始めると、恐らく全部完全に◎を満たせるような所は、現状クラスSの試合が行われていても、国内でも限られるのではないかと勝手に思っています。したがって、我々もロケーションの話とスペックの話は、ある程度切り分けて考えていかないといけないのかなと感想は持ちました。ただし、望ましい場所として、これらのことが満たされていないといけないということは、非常に参考になるご意見かなと思いました。以上です。

三浦会長

どちらのレベルでいくかという話になると、他の要素も絡んできて、それぞれに条件が出てきて意見も出にくいのかなと思います。ここは一旦、こういう条件がある、ガイドラインとしてこういうことが言われているということは、理解できたかなと思っております。その上で、次に話を進めさせていただこうと思います。

次は、2つ目の複合機能ということです。サッカースタジアムを造るということで、単純にスタジアムだけのスペックでという話もありますが、前回、海外の事例、特にヨーロッパの事例を見る、あるいは経営的な側面からいろいろ情報を頂いたところからすると、スタジアムを造るのであれば、それを中心に広島市、それから県域全体への波及も考えて、機能を複合化するということは1つの考え方だと思っております。それに関連して、これからいくつか資料を示して、意見等を頂ければと思っております。

資料3ですけれども、これは前回映像で見たものを踏まえております。ヨーロッパの主なスタジアムについて、どのような機能が付加されているのかを整理したものです。出典としては、Jリーグの視察報告書から作っていただいたものです。前回、映像を見たときに、ナレーションで、スタジアムの経営は単体ではなかなか難しい状況が、あれだけサッカーが盛んなヨーロッパでもあるということです。それに対して、機能を付加することによって、不足分を補ったり、場合によっては黒字化しているということがあった訳です。こちらの資料を見ていきますと、最初の所にスイスの例で、この場所はスタジアムに3万人少々が収容できることから、コンサートを開催したり、サッカー以外にアイスホッケーの試合をしたり、あるいはクラブオフィスがあったり、ミュージアムもあります。それから、前回映像で、他の所でもあったようなショッピングセンターを対応したり、あるいは会議室、学校関係などのいろいろな物があります。その下のザンクト・ヤコブ・パークですと、これも映像にあったかと思いますが、高齢者向けのマンションを対応したような所があります。これらについては、それ以上の詳しい情報が得られていませんが、先ほどスタジアムを造るときに専門機関へ調査依頼するという話がありましたが、恐らくこういった所についても、そこに立地するに当たって、その地域において不足している、あるいはニーズが高いものを付帯として設置したのではないかとということが推測されます。そうでないと、これらのもので運営費を賄っていくということは難しいのではないかと思います。例えば、スイスの高齢者向けマンションがあるというのは非常に特徴的な付帯機能ですけれども、恐らく、この地域ではこういった物がこれまで無くて、地域ニーズとしてそういった物が欲しいということがあったと思います。あるいは、その地域に競合するような店舗が無いことから、ショッピングセンターを設けられたのではないかと思います。中にはホテルもあります。試合観戦でホテルを利用する方もいらっしゃると思いますが、地域的に他の施設が近接していて、ホテル経

営という面でも十分経営が成り立つという判断から造られたのではないかと考えております。こういった状況を見て、こういった施設がニーズとしてあるのかということを知ることが1つです。ヨーロッパの事例については、今後さらに、なぜこういった物があるのかということについて情報が得られましたら、この場で紹介できればと考えております。

次に資料4です。これは広島都市圏について、今どのように捉えられているのかということについて、森記念財団でリサーチをかけたものです。先ほどあったような専門機関が広島都市圏について分析したものになります。調査の概要の所にもありますように、森記念財団が2010年に作成した「世界の都市総合力ランキングGlobal Power City Index 2010」の調査結果を活用して、広島を対象として、関連する情報を収集しスコアを算出して、広島都市力を評価したものとなっております。そこに書いてある世界主要都市35都市ですが、世界的にはトップの都市が挙げられています。広島都市圏の立ち位置は、第3グループの30位相当だろうということが、分析として出ています。福岡が28位、台北が29位ということですので、こういった所に近いのかなという結果です。ただ、他の都市は全て指標に関連するデータを使っていて、広島は全てではないという状況ですから、一応30位くらいだろうという結果になっていると聞いています。そういった中で、この分析では、次のページにあるような、「アクター別指標」というものを導入しています。単純にそれぞれの指標、データで分析してランキングを出すだけではなく、その都市で時を過ごしている人達、すなわち「経営者」としてその都市にいる人、あるいは「研究者」、「アーティスト」としている人、「観光客」、そして「生活者」、こういったアクターを設定して、それぞれが何を重視して都市を選ぶのかということによって分析したものになっています。例えば経営者で言うと、ビジネスの成長性であるとか、ビジネス環境、それから、家族や従業員にとって良好な環境であるかどうか、当然、家族を伴ってその地で生活していきますので、そういった視点が入ってきます。そういった視点で、広島という所、これは都市圏というエリアになりますけれども、比較したものです。そうやって見ていったときに、どういう結果が出ているのかというのがその次のページです。経営者という視点では、最近広島という地域はいろいろな企業の進出が増えているという情報がありますけれども、災害リスクが低いということで、東京の評価を上回っていることがあります。ただ、今回のスタジアムということに関しては、あまり関連しないタイプとなっております。研究者についても、研究環境ということがベースになっていますので、スタジアムとの関連性は少し低いのかなと考えております。飛ばして、アーティストという面では、結構広島は上位になっているということです。ただし、文化的な刺激とか、そもそもアーティストが活躍するマーケットについては弱いというところがあります。文化的刺激となったときに、スポーツを通じての刺激という面も恐らく考えられると思います。そういった面で、世界の都市の比較の中では弱いのではないかと結果が出ています。それから、次に観光客です。これも全体の順位の中で23位と、まずまずというところではあります。その中で、何が評価として高かったのかということ、安全という面で、他の都市をリードしているということが書かれています。その一方で、「観光対象の存在」や「宿泊施設」については評価が低いですし、「目的地までの移動の利便性」についても遅れを取っている。これは今回スタジアムということを考えてときにもある要素ですし、広島という地域が、例えば福岡とかと比べた時に弱い部分だと思われれます。そういった所があって、こういう順位になっていると伺えます。それから、次の生活者の所ですけれども、これも

比較的高いのですけれども、住まいという面とか環境面での高い評価になっています。その一方で、「余暇活動」とか「医療水準」については課題があるということになります。これは、今回のスタジアムということに焦点を当てた分析では無いのですけれども、こういった指標の中で、広島において、言うなれば弱みが出てきていると思います。スタジアムを造るということで、大きな意味でまちづくりと言っておりますが、こういった世界を対象とした都市間競争の中での生き残りを考えると、強みは伸ばしながら弱みは解消していく必要があると思う。そういう面では、先ほどあったアーティストにとっての文化的な刺激とか、生活者にとっての余暇活動という面で、今回のスタジアム、それに付帯する機能はプラスになるのではないかと考えています。この資料は読み解き方がいろいろあると思います。もし質問等があれば言っていただければと思います。

それでは、続いての資料として「グローバルMICE戦略都市」というものを紹介させていただきます。資料の5-1と5-2になりますけれども、MICEと言われているもの、国際会議とか展示会を開くことが、今、世界的に都市が競争力を持つ面で非常に重要視されています。シンガポールなどは、こういった面で伸ばしている所になります。趣旨として、これは募集があったときの趣旨説明なんですけれども、そこに書いていますように、国際会議とか展示会を開くことは、ビジネスをする人とか研究者を、国レベルで言うと、我が国に呼び込む、都市で考えると、その都市に呼び込むということになります。そういったことがビジネスの機会とかイノベーションの創出に繋がる、それが地域に対して大きな経済波及効果を生み出すということです。それから、そういったものを開くことで、情報発信の場にもなるということです。ですので、このMICEという取組は、我が国の都市の国際的な競争力を強化するツールとして極めて重要な機能を有するということになっております。さらに、今アジア圏がかなり成長しておりますので、そういった所を睨んでのことです。その一方で、先ほどシンガポールという話をしましたように、シンガポールや上海といった所はかなりこういった面で力を入れている所です。ですので、アジア圏で、かなり経済的な成長があるのですけれども、そういった中で、日本という国の地位が相対的に低下するという危惧がある。なので、今回、国としても、戦略的に国際会議や展示会を開けるような都市を造りたいということがあったということです。全ての資料を読みますと時間がかかりますので、後で見ただけであればと思いますが、結果的にどこが選ばれたのかというのが資料5-2です。グローバルMICE戦略都市として5つの自治体が選ばれています。まず東京です。オリンピック開催ということもありますが、現状の中でのトップである東京都、それから、横浜、京都、神戸、福岡となっています。横浜、神戸については、日本が世界に向けて国を開いて以降、世界との窓口となってきた東西の都市ですので、ここに挙がってきているというのがあります。それから、京都は、日本ならではの文化を持っているという部分で戦略都市として挙げられている。それに福岡が入っています。これまでの状況からすると、東京、横浜、京都、神戸に比べると、少し毛色の違う都市として福岡が入っているということが伺えます。これは、前回私の方でも紹介させていただきましたが、アジアの中における福岡ということを考えて戦略を打っているからです。そういった中で、戦略都市として先手を押さえた状況です。他の自治体として大阪、名古屋が書いてありますように、それらを差し置いて福岡が入ったということです。それは、都市としてどのような戦略を打って出ることが非常に重要であるということが考えられたと思います。福岡自身が行っていること

について、これは私が先方でお話を聞いてきたものになりますが、「福岡都心再生戦略」という資料を付けさせていただいております。こちらは、最後のページ、コピーがはっきり写っていない所もありますが、官民、それから大学も含めて共同で設置してある協議会です。この福岡という地域を戦略的に、今後どのようにしていくのかということを考えていく組織体になっています。そこで福岡は都心の再生戦略を打ち出しているんですね。表のページに、福岡を中心とした地図がありますが、これが非常に象徴的ではあります。福岡という所は、場所としては東京よりもソウルが近い、あるいは上海に飛行機で行く時間は東京に行く時間とさほど変わらないということが伺えます。そういった地理的特性を踏まえつつ、東アジアの中心都市になろうということを考えています。そういったことで、戦略として、先ほど私の方で紹介したMICEという言葉があるように、世界から人々を集めていこうという考えがあります。右上の赤い印刷のところに、東アジアのビジネスハブという言葉がありますように、東アジア圏の中での中心的役割を果たそうと考えている訳です。そういった中で、この戦略を打って出ているということです。今から同じことをしようとしても、広島は国としての指定を受けていないので難しいところはあるのですが、先ほど歴史的な背景から横浜、神戸、それから、文化的な側面から京都が選定されたということをお話ししましたが、広島も、日本の中では世界に対して非常に認知度の高い都市ですので、ここで考えているようなものとは多少傾向は違うかもしれませんが、国際的な会議とか展示会という言い方がいいかどうか分かりませんが、今後、国際的な催しを招致していくことは、大きな方向として考えられるのではないかと考えております。そういった意味で参考にさせていただければと思っております。5-4は、福岡で機能強化ということを出しているのですが、これを今回用意させていただいたのは、3枚目ですね、分析をしているというところをお見せしたかったんです。戦略を打つ上で、きれいな言葉を並べるとか、夢のような言葉を並べるとするのはよくあるのですが、福岡の場合は、今の立ち位置を分析した上で戦略をとるということです。福岡市における国際会議の開催状況として、平成21年、22年、23年と、国内で2番目と実績を積んでいるということを示しています。参加者数でもまあまあですけども、規模として小さい部分があって、開催件数は多いのに、参加者数ではやや少ないと、(H21は)3位だったり(H22は)6位であったりする。その辺りはどういうことが言えるかということであったのが、それぞれの会場で依頼はあったけれど断っている状況がある。企業の個別の展示とかコンサートにはなりますけれど、そういったものもあった。すなわち、もっと会場を用意すれば、これらのものをすくい上げて、より多くの人々を招くことが出来るという事に基づいて、国際会議等を開ける場所をさらに充実させようという戦略を絶えず行っている。これからスタジアムを中心にまちづくりを考えていく場合には、他の先行している都市がしているような分析をしていかないといけない。それこそ専門的な分野で分析させていただいて、提案をいただいて、その中で、私たちメンバーが考えていくことが必要ではないかと思えます。これは意見です。ここまでで何か質問はありますか。

永田委員

今ご説明いただいた中で、少し違和感があると言ったらおかしいのですが、簡単に言えば、MICEとか、そういった戦略、コンベンションを活用してまちを造っていくかについては、広島県とか市とか、自治体が考えることであって、我々が考えることを超えている

のかなというイメージがあります。というのも、今回サッカースタジアムというものはどういった活用の仕方があるのかについて、他のヨーロッパの施設ではコンベンションセンターとしても活用されていたりとか、そういった事例がありましたので、そういった活用の仕方もあると思います。現時点、日本においては、横浜とか福岡とかウォーターフロントの場で活用されている地域があって、広島ではそのような事をするのかどうかというのは、我々が言える立場ではないというイメージがありました。それと先ほど、森記念財団の資料にありました生活者とか研究者とかのアクター別分類の中で、「余暇の活動」は、何をしているのかによって満足度も変わってくると思います。観光客とかアーティストは、逆に言えばツーリズムという形を取り入れていけば、サッカースタジアムを活用することによって、他府県若しくは海外から広島に来た方々を、ツーリズムを通じてスポーツを活用してうまく活性化させる。もっと本格的に言えば、地域の活性化というのは、お金が落ちなければ決して活性化にはならないのであって、お金が落ちて初めて活性化になると思いますので、そういった面で活性化に繋がっていくのではないかなと思っています。福岡は、アジアの中の福岡という形で考えられていまして、そうでなく広島は、世界の中の広島であると思っていますし、生まれて育った中でもそう感じています。広島というものをもっと発信していく中で、平和というものを追求していくならば、平和の祭典のスポーツというものを取り上げていくべきかなと感じています。今後考えていく中で、福岡の事例は参考にする必要があるかなと思います。こういった調査とかシンクタンクなりのノウハウを取り入れながら、いろいろな提案をしていただく必要があると思うのですが、今後サッカースタジアムは、広島に必要なものはどんなものなのかということを考えるならば、塚井先生もおっしゃったように、ロケーションによっていろいろなものが変わってくると思います。単純に言えば、最後の資料の中にもありますけれど、いろいろな候補地がありまして、その中で、機能の中でどうしてもこれはできない、物理的に無理だというものもあると思います。最低限必要なものは何なのかということをもっと考えて、そこから付加価値として、例えば造ろうとする場所を充足できるようなものを考えていく必要があるのではないかなと思います。大きな戦略を県とか市とか、どこが主体となって考えていくか分からないですが、そういったものも必要になってくるのではないかなと思います。

三浦会長

今回、私の方でこれらの資料について説明させていただいたのは、前回、県とか市のまちづくりの方向性を見た訳ですが、スタジアムを造るに当たって、他の機能として何かあるかと言った時に、具体的なものがまだ見えていないという状況なんです。そういった中で、こちらでいくらどういったものを付帯すべきかと言っても、その根拠となるものが無い状況になってしまいます。ではということで、外的な分析、それから、福岡での取組等を見ると、やはりこの協議会だけでなく、もっと大きな部分で都市の中で必要なものについては提案をいただかないと難しいだろうと思っています。その参考になるというもので、今回用意させていただいたので、言われた指摘のとおりだと思っています。

加藤（厚）委員

ちょっと話が大きくなりすぎているという感じがしまして、もう少しスタジアムを建てる

こととの関連性が強い資料でないと、グローバルの中でのランキングだとか、これも重要だと思えるのですけれども、少し話が広がりすぎていて、これをどういうふう理解して、スタジアムの建設に関連付けるか分かりにくいなという感じがします。

三浦会長

今回の資料は、これまでの中でヨーロッパの事例等を見た時の機能では難しいだろうというところもある訳ですね。なので、そういった中で、どういった付帯ができるかを考えた時に、今、永田委員からも言われましたように、このサッカースタジアムの検討だけでは難しい部分もある。ただし、このようなより広い戦略性を持って造らないといけないだろうということで、今回用意させていただきました。同じようなことを、ここで私たちが議論することはないのですけれども、こういった状況であるということは意識していただこうと思って用意しました。

それでは、もう1つの資料6をご覧ください。こちらは、今回取り組んでいることから、関連するものが何かないかという時にあった情報で、それを提供させていただこうと思っています。これは、日本政策投資銀行が研究会を作って検討している内容です。少し情報提供いただいたので、お話をさせていただこうと思います。タイトルにありますように「スポーツを核としたまちづくりを担う『スマート・ベニュー』」ということです。「地域の交流空間としての多機能複合型施設」ということを言っております。開いていただくと「コンパクトシティとスポーツを核とした街づくり」ということになっています。左上にある「街づくりにおける悩み・課題」というのは、今日本において言われている内容です。中心市街地の空洞化であったり、大型商業施設・工場の撤退です。最近ちょっと商業施設は少し元気になっていると思いますが、やはりあったということです。あと、交通利便性についても公共交通が厳しい状況になったりする所もあります。そういったいろいろな中で、コンパクトなまちを形成していこうということが、方向性として出されているわけです。これは全ての街を小さくしていくということであって、拠点をしっかり整備し、拠点に集約して行って、どちらかという、将来的に人口が減った時にも負担が増えない方向に持っていこうという考え方で進められています。そういったものを考えた時に、スポーツ施設をこういった地域における機能の集約したもので造っていけばということが考えられています。一方で、スポーツ施設における悩み・課題もあるということで、施設の老朽化であるとか、郊外立地による低い利用率とか低い収益性があるといったことから、それを解決するというで造っていけばということです。そういった事が今議論されているようです。では、どんなものかというのは、次に絵としてあるのですが、まちづくりにおいては、「単機能型のスポーツ施設ではなくて、公共施設や商業施設との複合型など街づくりの中核拠点となり得る持続可能なスポーツ施設が国内でも必要ではないか。」ということを経験会で考えられているようです。それで、「周辺のエリアマネジメントを含む複合的な機能を組み合わせた持続可能な交流施設」を「スマート・ベニュー」と位置付けて、スタジアムあるいはアリーナ等をそういったものにしていこうということです。単機能であったり、公設公営であったり、郊外立地であったり、低収益性であるようなスタジアムについて、多機能型、商業施設複合型等と書いていますが、先程のヨーロッパの事例とかが考えられると思います。そして、民間の活力を導入したり、街なかに立地したりして収益性を改善する。周辺についても、しっかり

マネジメントをしていって、街づくりをしていけばという提案です。それができると地域に何をもたらすかが、その次に書いてある訳ですが、街なかスタジアム・アリーナ等と書いてあります。これが建設されると、「機能的価値の創出」ですと、都市機能の他、今までにない機能を作ったり、あるいはコミュニティの形成です。スポーツを通じてのコミュニティもありますし、付帯する施設でもコミュニティがあると思いますが、そういったものが生まれていくんだと。それで、地域の住民や企業にそれが使われていくということで、いろいろな活動があることが、結果的に行政的な視点で言うと、税金という形でオンされていって、税収が上がることによって、大きな意味でスタジアムの建設運営費として賄っていただけるのだらうということです。あるいは、さらに広いところでいくと、ビジターがどんどん訪れてきて、地域社会における購買行動を誘発していくということです。そうなってくると、地域社会の雇用が増えていって、これも経済的な価値が生まれて、良い循環が生まれるのではないかと考えて提案されているようです。こういった考えもあるので、スタジアムを中心として、いろいろなことができそうだと見えてくると思います。今、いろいろなことを私の方で紹介した点で、事前に資料は目を通していただいたと思っておりますけれども、議論の中で、なかなか焦点が定まらないことになっていたと思います。ただ、一度ここでいろいろな可能性について広げておいていった方が良いと思ったので、今回、いろいろ研究されている、あるいは先行的に取り組まれていることを紹介しました。特にこれについてご説明と言われても、私の方は厳しいですが、何かあればどうぞ。

小谷野委員

補足いたします。このスマート・ベニューの話と、今日、冒頭に配付されておりましたスタジアム標準、実際に造る際に、日本サッカー協会がどういうことを考えているのかという資料の関係性ですけれども、資料で配られているスタジアムの建設・改修に当たってのガイドライン、これは2010年にサッカー協会が作っているんですね。サッカー協会は、県のサッカー協会を統合するとともに、代表の試合を主に行っている、あと天皇盃ということですけれども、比較的、都道府県の自治体等と一体化しながら、地方のフルでない部分、Jリーグ以外の部分のサッカーをどういうふうに見ていくのかという観点が結構強いと思うんですね。彼らは、そうした中で、サッカーの立地要件について、実質的には、代表の試合などもそうですけれども、郊外に造る可能性が高いから、そこに至るまでのアクセスをしっかりしろというのが、2010年の日本サッカー協会の立場なんですね。DBJのスマート・ベニュー研究会の方は、あとの部分に参加者が書いてありますが、Jリーグの大河さんが入っているんですね。こちらは、どちらかというと、Jリーグを中心に地方の活性化というのをもう一度考えていこうという視点が、Jリーグを通じて入ってきているのではないかと私は思います。その中で、特に冒頭で注目されるのは「街づくりにおける悩み・課題」の所ですけれども、「大型商業施設や工場の撤退」と書いてありますけれども、都道府県の所在地、Jリーグがあるような街の、わりと街の中心部の伝統的な商業地が閑散化していると、それにどういう手立てを打っていきましょうかという視点が、こちらの方は強いんです。なので、協会の2010年の基準ですが、どちらかというと、代表戦などに使える大きなものを郊外に造るといった視点が結構強くて、こちらのスマート・ベニューの方は、そうした伝統的な商業地区の閑散化を止めるために、スタジアムをどう活用しますかという視点が強いので、そう

いった意味で、同じサッカー界でも立脚点が少し違うと感じています。一応これはご参考までです。

永田委員

もう少し平易に話しますと、簡単に言えば、「スマート・ベニュー」というのは、ファシリティ、要するに施設をどういうふうに活用できるかという概念が考えられていまして、できたものをどういうふうに活用していこうか、できたらこういうふうになりますというもので、既存の施設とか、そういったものを活用していこうというものであります。一方、Jリーグの方がガイドラインを出しているのは、単純に言えば、造る際、こういった物を造らなければならないという最低限のものです。クラスS、クラス1・2という形で造るならば、こういった物が必要ですよ、こういった物がいいんですよという話であります。では、我々は、広島はどれを選択するのか、どういった選択肢があるのか、場所もありロケーションもあり、もちろん費用というのも一番重要になってきますので、どういったものを最低限付けて、広島らしさを出して、いろいろな所でそれぞれ地域の中で見ていくと、こういったものが足りないから勘案していこうとか、広島ならではの平和を訴えていこうというものがプラスアルファで考えていかなければならないものであろうと思います。単純に「スマート・ベニュー」の方は、こういった使い方があったらベターですよという概念に基づいているというふうに考えています。以上です。

鵜野委員

私は、多機能複合型施設というのは非常に賛成です。かつてはサッカーの試合に行くとなると、陸上競技場にサッカーの試合だけを見に行くというようなパターンしか無かったわけですが、海外等のスタジアムに行ってみて、プロスポーツをいかに楽しむかという視点からすると、ただ単にそこに行ってサッカーの試合だけ見るのではなくて、サッカーの試合前も何かをするし、終わった後も何かをする。また、サッカーの試合をしている間も、サッカーに興味がない人が、例えば家族に1名いれば、スタジアムのどこかで時間をつぶしているとか飲んでいたりとか、そういったものが結構海外でもあるんですね。これは小谷野委員に怒られかもしれないですけども、サッカーに興味がない人もいますから。お母さんが向こうに行っているとかですね。そういう意味で、プロスポーツの楽しみ方というのは、昔に比べて変わってきているし、みんなの楽しみ方ができるような施設というものを、サッカーだけしか見られないというのではなくて、他にも楽しむことがある、試合がない時もそうなのですが、試合がある時もその前後及びその間にできるような施設というものを目指した方が、やはり良いのではないかと思います。

加藤（義）委員

今までの資料で、まちづくり、都市づくりという意味で、都市の魅力が分析されて、広島というのは、どういう所に位置しているのかということがありますが、全国的には、MICEですね、イノベーション。都市機能の強化ということは今、各地でしていることが非常によく分かりました。やはりこれは、広島にとっては喫緊の課題ではないかと思うのです。何かしなければいけないという課題であることは間違いない。もう少し我々が周辺環境、取

り囲まれた状況というものをこうして共有化することも非常に大切なことです。こういう中で、スタジアムの在り方というものを考えていかなければならない。これそのものが決め手になるものではないと思うのです。そういう意味では、今回、あるいは次回ぐらいでもこういう勉強はしておく必要はあるのかなと思います。今、他の都市に負けないスタジアムを造ろうとする場合、あんまり私たちが深入りするものではない、こんな事が今言われている、それを排除しながら造らなければいけないというのは、よく理解できました。やはり、スタジアムの例があって、複合施設という資料がありましたけれども、これもハードの施設を造る複合と、もう一つは、そこの立地を使っていろいろなイベントをしていこうというソフトの面があると思うんです。今から、そのようなことも資料に出てくればいいかなと思います。いずれにしても、この街づくりの中の一環として、やっぱり市民が、あるいは市が活性化して、何かあるなら行ってみたい、今日は何かがあるかな、行ってみて良かったな、ちょっと街でも歩いて帰ろうかというふうなことも、一つの大きな要素なので、政策投資銀行のマネジメントという付帯的なものも、一つの見方なのかなという気がしましたが、むしろ、私たちスタジアムの在り方を検討するに当たっては、別な所にこういうことを並行的に始めてもらって、こういうスタジアムの在り方の位置づけというのも考えてみたいというような、中間の前段の報告みたいなものがあったらいいのかなという気がしました。

三浦会長

ありがとうございます。今回、いろいろ資料を私の方で用意させていただいたのも、今言われたように、単純にスタジアムのことだけでなく、より多くの市民に対して、望まれるものになっていくためには、こういった考え方が必要だろうということで、皆様にも理解していただきかけたところがありました。ただ、いかんせん詳しい部分がなかなか分からないので、できれば今言われましたように、もう少し踏み込んで具体的にどのようにそういったものを戦略として打ち立ててやっているのかということについては、話を聞く機会を設ければと思っています。その辺がないと、どんな機能かと言われても、私たちはそこまでの材料を持ち合わせて議論している状況ではないので、また次回以降に、今日をきっかけにそれぞれメンバーの方で、例えば何かの資料を探していただいて、こういうのはどうだろうということを提供いただければいいと思いますし、私の方でも、また情報提供できればと思っています。もうしばらくこの点について、どのような規模にするか、金があれば大きいのが良いということになるのですけれども、どのくらいの費用の差があるのかということ踏まえて、それから、複合機能についても、今後さらに議論を深めていこうと思っています。

その辺をイメージで膨らませた上で、前回も委員の皆さまから広島にサッカースタジアムを整備するとしたら、どのような場所が候補として有るのかということについて、一度整理してほしいということがありました。それから、国内の他のスタジアムのアクセス等がどのような状況にあるのかということについても、理解しておきたいということがありましたので、これは事務局の方をお願いして整理をしてもらっております。資料7です。資料7は2通りあります。それと資料8になりますが、これについて少し説明をいただきたいと思えます。

事務局

資料7につきましては、これまで話題になった用地を、1番から9番まで挙げさせていただいております。所在地、面積、所有者、用途地域、アクセス、現在の状況等、法的規制などの一覧ということで、簡単ではありますがまとめさせていただいております。めくっていただきますと、これらがどの辺りかというのを、地図上に書いてありますのでご確認ください。あとは、施設のレイアウトを、簡単なものですが作ってありますので、イメージするというので、ご確認くださいと思います。資料8につきましては、現在Jリーグで使用されている専用スタジアムのものになります。アクセスにつきましては、ホームページに書かれているものをリストアップしておりますので、どれくらいの輸送能力があるとか、そういった細かいものではありませんので、それは別途調査していく必要があると思います。以上です。

三浦会長

委員には、参考レイアウトをお配りしているのですが、これはどのくらいの規模の物を単純に当てはめているのですか。

事務局

こちらは2万5千人の物をはめております。本当に載せているだけなので、細かいレイアウトをという訳ではありません。

三浦会長

見方としては、例えば座席の配置等とか勾配とかを変えれば、より狭い面積でより多くの収容が可能になるということもあるんですよ。物理的に可能であるということの資料であるということですか。

小谷野委員

スタジアム建設の議論が出て以来、自薦他薦、いろいろな設計会社の人達が我々の所に来たりするのですけれども、一般的には上の方に積んでいけば、2万5千人でも3万人でも、182メートルとか185メートルの225メートルあれば、大体いけるなというのが僕の印象で、旧市民球場跡地に造った場合でも、商工会議所とPLの所がひっかからないように、電車通り沿いの方に向けて、177メートルくらいまで切りつめて造って、3万人もいけるという話も、自分が聞いている中では出てきていますので、これは2万5千人で余裕で置けるかどうかという感じの見方の方が良い気がしますね。

三浦会長

資料の見方で質問等はないでしょうか。

小谷野委員

先ほど、三浦会長の複合機能等の関連で、今後の進め方にも関係してくるのですが、複合機能といった場合に、規制の問題も結構あります。都市公園法の枠内でどこまで出来るのかとかですね。いろいろアイディアを広げる一方で、できることとできないことというものを、

規制上の整理も複合機能を考える際には要るので、こういうスタジアム設計、特にJリーグあるいは国土交通省の規制に詳しい人とかを呼んで、いろいろお話を聞くこともした方がいいのではないかと思います。我々も、今のエディオンスタジアムを使う際に、都市公園法の規制があるので、こういう所に看板を出してはいけないとか、そういう規制はあります。それと、また逆の意味で、海外で複合機能を持たせている物というのは、スタジアムの経営をより円滑にするというか、収益の底上げ要因に使っているのか、ある種、理念的な部分と、実際のお金を稼ぐ部分のバランスというのが出てくるだろうなと思いました。ちょっと話が横に逸れましたが、都市公園法とか、国有財産法等々の法規制に関する話というのは、また別途この会議で押さえさせていただければと思います。

鵜野委員

具体的な議論は、これからの話だと思いますが、資料の中で、追加的に調べてもらいたいことがあるのですが、やっぱり今のスタジアムで渋滞ということがあると思います。今、結構大規模な商業施設の開発等も進んでいますので、もし可能であれば、それぞれの候補地に対して、その周辺の専門家による交通量予測のようなものが出せるのであれば、出せるのかどうか分かりませんが、こうなっているから大渋滞にならないとかいうようなものを、将来的に出していただければと思います。というのは、せっかく提言した所が大渋滞になったというのでは、やっぱり面白くないので、その辺りの予測で大渋滞にはならないという確証が、提言する上で多少なりとも欲しいかなと思います。可能であれば、将来的に用意していただければと思います。

三浦会長

恐らく現状のデータも、ある所とない所があると思いますし、かなりの渋滞がもし予測されるのであれば、更なるインフラ整備ということも合わせてするようになるのだろうと思います。こちらの方で、いろいろな用地を詰めていく時に、ここが候補としてより上位にあるといった時には、その辺りで道路交通がネックになれば、そこに対して、新たな整備をお願いすることもセットになれば良いと思っています。塚井先生の方で、交通の専門家として何かありませんか。

高木委員

規制のお話がありましたけれども、規制とかそういうことを始めに頭に入れますと、それにはめてということで、何か夢が広がらないような気がします。もっと枠をはずれて、この広島に、日本に一つしかない素晴らしいスタジアムを造るんだというような熱意を持たないと、市民の皆さんを説得する力が弱いのではないかと思います。その中で、しようと思った時に、規制とかいろいろ出てくるのだと思いますが、もう少しそういったところでの議論というのは、これから行われるのでしょうか。

三浦会長

ここで今挙げているのは、現状でこうなっているのだという事実を整理しただけです。これまでの議論の流れは、今言われましたように、せっかく今からスタジアムを造るのであれ

ば、それをどういう物にした方が、より多くの人にとってより良いものであるのかということ根底として、一番大きな柱として考えなければいけないと思います。ですので、今回その辺りについて、いろいろな事例とか、あるいは都市が置かれている状況とか取組等を説明することによって、ある程度それぞれの視野の拡大をしていただいたかと思います。どうあるべきかということに関して言うと、私どもの方で資料を用意しておりますけれども、各委員からも、こういったものが良いのではないかという提案を頂ければと思います。そういったものを、この場で相互に議論をしつつ、熟度を上げていくことが必要かと思えます。アクセスの件についても、そこがボトルネックならば、そこを解消することも含めてすればいいと思っていたところです。

塚井委員

アクセスに関しては、私も大事な問題だと思っています。これは、私の個人的な希望ですけれども、資料7というのは、かなり具体的にイメージできるように出してくれて、非常に結構だと思っているのですけれども、それぞれのアクセスについて、整理することももちろん必要だということと、大変だというお話は伺っているのですけれども、現状の大変さ、同じように数字で比較するのであれば、現在地の所での交通の問題、これは想像はつくんです。ただ、私も、数字ベースでサッカーの試合があるとどういうことになるかを言ってみると言われると、自信を持って説明はできません。恐らくの話ですけれども、例えば旧市民球場跡地に建設した場合であれば、多分ピーク時の需要も、いろいろな交通機関も考えなければいけません、計算すれば捌けるということでしょう。ですが、現状でどれだけ負荷がかかっているかということの議論なしに話をされるのはいかがなものかと思えます。

資料7の大規模用地等、これも同じように横並びで見たいという意味のお話なのですが、8番目に広域公園、つまり現地が挙げてあって、レイアウト図の方は、多分お忘れになっているのかなという感じがしますが、8番目が無い。現有地の所で考えるというのを、もう既に考えないということで議論を進められるのか、そこがちょっと私には分からないです。現在の場所が不適地であるということをしかり示していただかないと、新しい場所が適地であるという言い方もできない。それは、一つは交通の問題がありますし、それから、改修の問題もあるということだろうと思えます。そこが横並びで見たいと思えます。これが、前のお話からのお話です。

私は個人的に、レイアウト1、2（中央公園・旧市民球場跡地）に関して気になっていることがあるので、申し上げても良いですか。このレイアウトの1、2ですね、前もちょっと申し上げたのですが、原爆ドーム前の電停を挟んで原爆ドームがあります。先ほど、高くすればいくらかでも納まるというお話もありましたが、ここのスタジアムは高くできないのではないかと思います。規制ではなくて、景観の問題です。冒頭に申し上げたように、この原爆ドームのビューラインというのは、きれいに平和公園のど真ん中に原爆の碑がありますよね。左側にちょうど商工会議所ビルがかかる形で用地を確保しなければいけないというサイズになっていますけれども。想像ですが、私も高さがどういうふうに見えるかというシミュレーションができる訳ではありませんが、用地の広さとスタジアムの大きさから考えるに、きちんと原爆ドームの後ろをふさぐ形のスタジアムができるのではないかという印象を持ちます。したがって、他の所でこんな議論をする必要があるとは思えないですが、広島のこと（旧市

民球場跡地)に造るという案の検討の時には、最終的には、どういうふうに平和公園から見えるかというところをシミュレーションしておく必要があります。もちろん、だから駄目だという話をするのは、まだ早計だと思っています。ただ、それが分からないと不安で、我々がその話を落として結論を出してしまうと、いざ図面が立ち上がってきた時、恐らく最終的には三次元のシミュレーションに直されることでしょう。そして、指摘としては、現在の商工会議所に関しては、平和公園からの眺望という意味で、あまりよろしくないのではないかというようなお話も、時々出ているところであります。したがって、そこは欠かせないところかなと思います。以上です。

三浦会長

現状の広域公園は、先ほど私から説明しましたとおり、大規模用地として存在するものを挙げた時に、本当にはまるのかということで、それぞれの所に単純に絵を落としてもらっただけです。当然、広域公園は十分な広さがあるということで、図面上には無いということのことです。

山根副会長

(旧市民球場跡地のレイアウトでは)武道場を壊してしまうじゃないですか。(武道場を壊さない)入らないものを入れている図面になっていると思うのですが、どうですか。

小谷野委員

それはそうです。

塚井委員

現状のサイズの物を造ろうとすると、はまるかはまらないかを吟味すれば、例えば出島(東第2野積場)は、相当小さくして高くしないと入らないということは簡単に想像がつくんですね。申し上げたかったのは、⑨(メッセ・コンベンション用地)は参考として付けていただいているのは結構なのですが、なぜか最初からあまり考えないということになっています。そこまで勘ぐる必要も無いのですが。横並びに何もかも比較できるようにしておかないと、なかなか結論が出しにくいということだけ申し上げておきます。交通の問題に関しては、ご指摘のように、これからそれぞれ精査していかないといけないかなと思います。

小谷野委員

非常に基本的な理解の確認なのですが、出島に造るかどうかは別として、⑨(メッセ・コンベンション用地)に関する理解として、⑨は絶対不可ということが、市の方針で決まっているという理解でよろしいですか。普通出島といった場合には、④(出島東第2野積場)は小さいので、割と大多数の人が⑨を意識して話していると思うのですが、⑨は、市の方針が決まって動いているので不可となっていますが、そういう理解なのですか。

三浦会長

並べ方として、不可ということではないです。ただし、現状として、他の用途で使うとい

うのが消えている訳ではないので、少し他とは違うということで、参考という形にさせていただきます。

小谷野委員

分かりました。普通の人には、出島と言ったら⑨なので、ちょっとこれを見たときに、「おおっ」と思いました。

三浦会長

それと、先ほど言われたように、現有地での建替えを決して排除しているのではなくて、それぞれ用地として、こういうものが存在するということで挙げさせていただいていますので、差があるということではないということで、見ていただければと思います。

加藤（義）委員

この資料は、今から議論するのに非常に良い資料だと思っています。例えば十数年前に五日市埋立地というのを検討したことがあるんですね。そこは、いろいろな汚水とか有害物質が出てはいけないから駄目だという話が出ましたが、現状では、どうかなというところで、可能性ですね。一番下には、メッセ・コンベンションがある出島は、「不可」と書いてありますが、そういったように、ここはこういう法律で無理だとか、あるいはプレーする上で、南北にゴールがあるから夕日が来たときにできないから、サッカーに向かないとか、いろいろなことがあると思うんですね。そういった法律の制約などを少し関係部署でピックアップしていただければありがたいし、できれば、ここは駄目だというのはカットしていく必要があるのかなと思います。

三浦会長

今回は、前回お話があったことで、とりあえず、可能性があるものを挙げていきました。今回の資料は全てそうなのですが、まだまだ入口で、さらに詰めていかなければいけない内容です。それぞれの条件についても考えないといけませんし、先ほど塚井委員からあったような景観の問題ですね、景観に関しても、広島市の方で別途定めておりますので、当然そこは関係が出てくる所だと思います。そういったものは、それぞれ精査していかなければならない状況だと考えています。場所においても規模においても、いろいろ条件等もまだまだ出てきますし、どういった方向性で行くのかということも、まだまだ議論を進めないといけません。そういった面で、今回こういったメニューを私の方で広げましたので、次回だと1月しかないのですが、その次以降でも、委員の方から提案とか資料提供があればと思っていますし、今回指摘された点に関しても、事務局等を通じて資料を集めていこうと思っています。他に何かありますか。

川平委員

今回、広島市に存在する主な用地が資料によって示されましたが、これから議論を深める中で、どこにするかということになるのですけれども、その中で何点か考えないといけないことの一つは、規模をどの程度にするか、また、どういった機能を持たせるか、当然その中に

は、公共施設とか商業施設、いろいろなものが考えられますが、その採算性という問題を考えないといけない。ただ複合機能を持ってさえいればいいものではないのかなという気がします。それから、もう一つは、いずれも貴重な、ある面では市民なり県民の財産なのですから、それが本当に最適な活用方法かという点を含めて考えないといけない。当然のことながら、Jリーグの試合というのは、年間20程度しかないのですから、あとの利用をどうするか。そういった経済性を考えた上で、場所を決めていかなければならないのかなと思います。理想的なものを造るという思いと、今度は現実的に振り返ったときに果たしてどうかと、これから資料を検討する中で、考えないといけないかなという気がいたしております。

野村委員

資料2に日本代表戦の入場者や開催地が書いてあるのですが、2002年に造って一度も開催されていないのがカシマスタジアムです。カシマスタジアムでなぜ開催されていないかという、あそこに行くのが大変なんです。一度やって、交通渋滞も大変なので、ここではもう出来ないということを決めたことがある。2004年頃だったと思います。それ以来カシマスタジアムでは開催されていません。それは、非常にアクセスが悪く、半分近い入場者が、試合が始まってから来たということがあったり、ハーフタイムが済んでもまだ着かないという方もおられたようです。昔は、広島ビッグアーチでもそういったことがありました。Jリーグの試合で、ハーフタイムまでに来れないということが、ヴェルディ戦でありました。大分と静岡が少ないのですが、大分も静岡のエコパも非常に交通の便が悪いうことで、開催されている回数が少ないというふうに思います。大分では、2007年にカメルーンと行っているのですが、これは(2002年ワールドカップのときに)カメルーンが大分に来てキャンプをしてくれたので、大分で開催した記憶があります。エコパについては、非常に具合が悪いのでなかなか開催出来ない。宮城は、スタジアムが非常に山の中にありまして、ビッグアーチよりも交通の便が悪く、道が暗いため、ナイターの場合、車で来られた方が危険だということで行わないと決めていたのですが、震災復興ということで行っているのが現状です。宮城スタジアムでは、音楽会も開催され、大変な人が集っているようですが、震災があったからあそこを使っているというのが現状ではないかと思っています。

永田委員

今後のことを少しお話してもよいでしょうか。資料8にある国内主要専用スタジアムの付随機能としてどういったものがあるかということ調べることは可能でしょうか。複合型という形で、どういうものがあるのかが分かればいいのかと思うのと、また、その中での指定管理がどういった形になっているのかなと思います。今後、広島にサッカースタジアムができることになるのであれば、指定管理というスタジアムの中での営業権がどこになるのかということも考えないといけないし、採算面の問題にもなってくるので、他の所がどうなっているのかが知りたいというのがあります。もう1点、市長が先頃ナショナルトレーニングセンターの誘致を表明されていまして、広域公園にナショナルトレーニングセンターを誘致したいという話がありました。そうであれば、現状行われているサンフレッチェのホームスタジアム、エディオンスタジアムをどのようにお考えになっているのか、はっきり分からないので、ぜひそういったことを分かる方がいらっしゃれば、インフォメーションとして流

していただければありがたいと感じております。

塚井委員

今、ちょうど資料8のお話がありましたので、次回に向けて、私も1つお願いがあります。場所の所ということを少し申し上げて、こういう資料を提出していただいたのは非常にありがたいと思っています。もう1つ知りたいことが私もありまして、永田先生のお話に加えて、都市の大きさです。先ほどから複合機能というお話が出てきていますけれど、広島というのは、都市圏で言えば100万以上の人口を抱えている所で、その土地利用に対してスタジアムがどこの辺りに位置しているのかということは、既存の土地利用とのバランスで決まっている部分が非常にあると思います。特に日本の場合は、恐らくサッカー文化の成立みたいなものがヨーロッパよりも遅かったので、野球文化の方が早く成立した関係上、余計に郊外にという状況にあると思うのです。必ずしもそうでないかもしれませんが、だから、スタジアムは郊外にあるべきだというのは早計だと思いますが、しかし、現状複合機能をどう考えるかということと、前の土地利用とどうなっていることと、今回適地に挙がっている場所も、例えば中心部に持ってくるのであれば、複合機能としても豊かなものが期待できるでしょうし、また、宇品・出島の用地であれば、なかなかこちらにあるような機能をこうしましょうということは、机上の空論のようなことになるかと思えます。したがって、最寄りの駅からのアクセスも非常に大事で、この資料は素晴らしいなと思っているのですが、複合機能に加えて、市の一番の中心、これをどこにするかというのはなかなか難しいのですけれど、役所のある所なのか、中心駅のある所なのか、そういう所からどれだけ離れているのかということと、都市の規模ですね、これを少し見ておく必要があるのかなと思います。前回出していたヨーロッパのスタジアムに関して、こそこそ調べていまして、ドイツというのはやはり文化が違うのか、広島の半分ぐらいの規模の街でもスタジアムが2つあるんですね。サッカーチームが2つあって、かつスタジアムが結構市内に近い所にある。そういう立地の所もありまして、やはり用地がないのか非常に郊外にあって、今日の資料にも出てきていますけれど、各ヨーロッパのスタジアムに関して、かなり郊外にあって、ここは交通はどうしているのかなと思うような場所も見受けられます。したがって、私が申し上げたかった立地の話というのは、現状の数字を整理していくということに加えて、他都市なり、ヨーロッパの都市なり、全てを横並びにする必要は全くないと思いますし、先ほどの野村委員のような意見は非常に貴重です。私には、サッカーにそこまで深い造詣はないので、できそうではないでしょう。カシマスタジアムがそんなに苦しんでいるというのは、ちょっと想像の外にありましたので、そういった話と合わせながら、どこの立地にするかということ横並びで見なければいいかなというふうに考えています。

小谷野委員

これは提案なのですが、「専用スタジアム」という言葉が結構誤解を招いているようですので、この協議会はいろいろな所で報道されていますけれども、「専用スタジアム」というのは、あくまでも「トラックのない競技場」という意味ですよね。なので、「専用スタジアム」という言葉は事務方でも使わないでいただいて、「サッカースタジアム」という言葉に統一していただければと思います。いろんな複合機能とかを今後考えていく中で、サッカー

専用スタジアムという言葉自体が世間一般で使われるときにネガティブなイメージを持たれているかなという感じがしますので、ぜひ「サッカースタジアム」という言葉で今後はお願いいたします。

加藤（義）委員

今日お配りになった資料2の日本代表戦の入場者リストですが、これは参考ということでもありますけれど、サッカー協会の大会というのは、日本代表戦だけでなく、いろいろ親善試合があったり、あるいは日本のトップチームのゲームがあったりして、やっぱり広島ファンに見せたい、あるいは子どもたちにも見せたいなど。こういう国際試合のようなトップレベルのものを、どんなものがあれば、どれくらい入れればいいのか、データが集まればいいと思います。

三浦会長

状況としては、今回、いろいろ情報はお見せして、どちらかという概略だけを見せた感じで、それに対して、本当に有効な実のある情報にしていくためには、内容について、さらに私たちが知らないといけないということが見えてきたと思います。その辺りを次回以降少し、事務局あるいは関連する所には負担もありますけれども、詰めていって、もう一段階議論が深まるようにしていきたいと思っています。私の方でも、今回頂いた意見を基に、次回以降に向けて整理をしていきますし、そういった中で、各委員からも、この点についてはさらに深い情報が知りたいということについては、事務局にリクエストしていければと思っています。

補足として、前回の協議会の広島県のまちづくりの基本的な考え方の説明の際、小谷野委員から、広島市のスポーツ振興計画のようなものがないかという質問があったのですけれども、県にもスポーツ振興計画があつて、現在、改訂作業を行っているということでした。

今日は、いろいろなところをメニュー出してみたいな形で議論をしたところです。決められた時間になりますので、そろそろ終わりにさせていただこうと思います。次回以降、福岡の方で都市戦略として進められている、それも行政だけではなくて、大学、それから民も一緒になって進めていることに関して、資金の獲得の仕方等についても、いろいろ手法があるようです。その辺りについて打診をしたところ、全てオープンにはできないということですが、ある程度はお話ができるということでしたので、そういったところについて情報提供をお願いしております。それから、政策投資銀行の方からも、今回ざっとお話をしましたが、そういった資金面も含めて、どういう可能性があるとかの事例を基に、内容について私たちが理解するためにお話をさせていただこうと思っています。また、海外の事例については、中国新聞の方で特集を組まれていました。どこまでの情報をこの場に提供していただけるかは、これからの話になると思いますけれど、今日は単純に情報としてこういう施設があるということでしたけれど、議論にもあつたように、どういう街でなぜそれが必要となったのかや、街の規模等、よりイメージが深まるような情報提供をいただきたいと思っています。その辺りについて、それぞれ深めないといけませんし、国内のスタジアムについても、情報をより深く知る必要があるかと思っています。そういった辺りを今後さらに深めていって、議論の中で機能であるとか、用地であるとかについては、全てを全力でするのがなかなか難しい状況

が、だんだん生まれてくるところです。そういった中で、取捨選択しながら、選択されたものについては熟度を高める方向で議論を深めていければと思っております。

次回については、日程調整を皆さんにお願いして、10月15日火曜日の15時ということであれば、皆さんがお揃いということですので、この日で開催させていただこうと思います。3週間後です。それまでに、どこまで内容、情報等が用意できるか分かりませんが、ご用意させていただこうと思っておりますし、皆さまの方でも何かありましたら、提供いただければと思っております。場所は、広島県庁での開催となっております。詳しくは、また御案内いたします。

それでは、以上で本日の協議会は閉会といたします。長時間ありがとうございました。